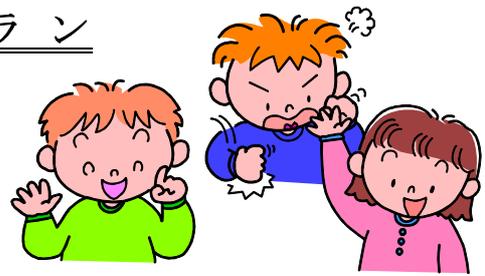


レ ス ス ン プ ラ ン

4 学年 第 4 回 (相互依存関係認識②)

テーマ: 「みんな違って、みんないい」



授業の目標:

- (1) どんなに顔や格好が似ている人でも、人はみんなそれぞれ個性を持っており、それぞれが何者にも変えられない特別な人間であることを理解する。
- (2) 人間にはそれぞれ個性があるけれども、同時に多くの共通点も持っており、同じ人間であるということを理解する
- (3) 固定観念にとらわれず、外国から来た人や自分とは違う人を、単に“個性的な”人物としてとらえ、自分と同じ人間として見ることができる

用意するもの:

ALT

担当教師

- ×ゲームの質問事項、ポスター
- ジャガイモ活動ワークシート

- ジャガイモ(子どもに持参するよう指示)
- ジャガイモを入れる大きな段ボール箱

時間	活 動	気づいた点
8分	挨拶の後、 ALT は子どもたちに自分のジャガイモをじっくり観察して、自分のジャガイモの特徴を覚えておくように指示する。子どもたちはまた、そのジャガイモがどこから来て、これからどうなるのか、自分のジャガイモの過去と未来について想像する。	
7分	子どもたちはペアになって、自分のジャガイモを相手に紹介する。数人にクラス全体に対しても紹介してもらう。	
10分	ALT はジャガイモをすべて段ボール箱に入れるように指示し、混ぜる。その後、 ALT は子どもたちに、箱の中から自分のジャガイモを見つけ出すように言う。(子どもたちから「無理!」などと声が挙がるが、とにかくやってみるように指示し、全員が自分のジャガイモを見つけられるまで頑張ってみる)	
5分	みんなが自分のジャガイモを見つけたところで、 担当教師 は「ジャガイモはみんな同じに見えるが、よく見るとそれぞれが違った特徴を持っている。どれもジャガイモには違いないが、それぞれに個性がある」などと、ジャガイモ探しの活動の意味を説明する。また、 担当教師 は「これと同じようなものにどんなものがあるか」と子どもたちに尋ねる。その後、 ALT が話を続け、「私たち人間にもジャガイモと同じことが言えます。私たちはみんな同じ人間ですが、一人一人にはそれぞれ個性があり、特別な存在なのです」と伝える。	
10分	担当教師 は○×ゲームをすることを告げ、教室を○と×の2つのエリアに分ける。子どもたちは、 ALT が読む外国に関する文章を聞き、正しいと思ったら○へ、間違っていると思ったら×へ移動するように指示する。 担当教師 は、移動後数人の子どもにそう思った理由を尋ねてみる。	
5分	担当教師 は授業のポイントをまとめる。外国から来た人は私たちとは少し違っているかもしれないが、人間は誰もが似ている点、違っている点を持っており、何人だから、誰だから、こうだと決めつけてはいけない。人と接するとき大切なことは、私たちは同じ人間なんだということを忘れないことである。	